

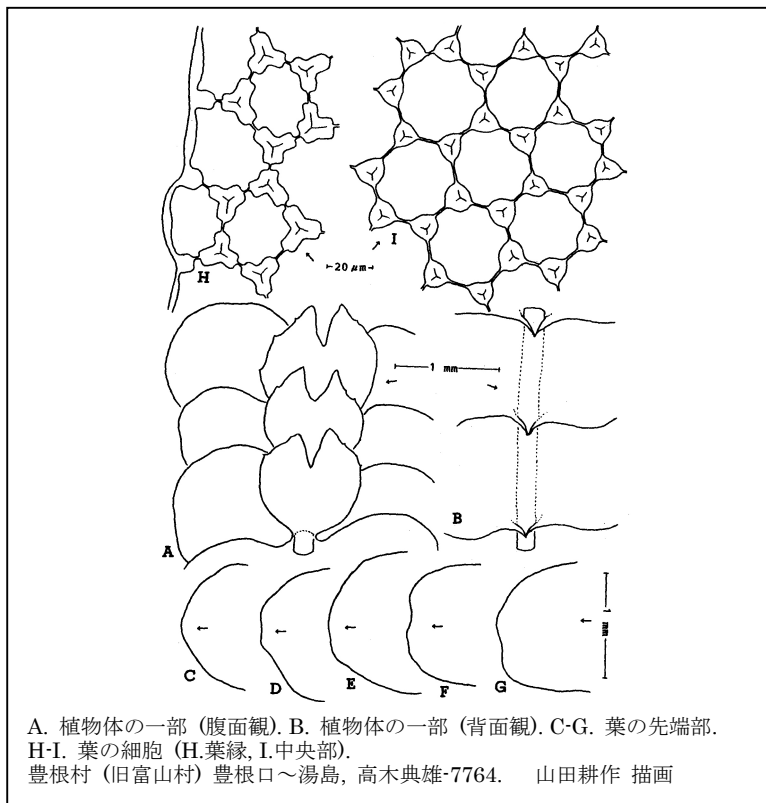
マルバソコマメゴケ *Heteroscyphus tener* (Steph.) Schiffn.

【評価理由】

本種は、やや高地の湿潤な森林内に生えるため、森林の開発、伐採などに影響を受けやすく、その上に産地もごく限られ絶滅の恐れがある。

【形態】

植物体は長さ 30mm、葉は広卵形で先端は丸く、背縁の基部は腹葉と連結する。腹葉は大きく幅は茎の約 5 倍で、円形、先端部は 1/4~1/5 まで 2 裂し、両側に 2~3 歯がでる。葉細胞は大きくトリゴンが発達している。



【分布の概要】

【県内の分布】

豊根村 (旧富山村) 豊根口~湯島、新城市 (旧鳳来町) 乳岩峽に分布している。

【国内の分布】

琉球から北海道 (岩月編, 2001) にかけて分布するが、産地は極めて少ない。東海地方では、三重県、愛知県、静岡県から知られている。

【世界の分布】

セイロン、ヒマラヤ、中国、台湾、日本に分布している。

【生育地の環境／生態的特性】

やや高地の湿潤な森林内に生える。本種が属する日本産の *Heteroscyphus* (ウロコゴケ属) の仲間は、湿った林内や谷間を流れる小さな溪流域の土上や岩上に生えるが、本種はやや高地の湿潤な森林内の樹木の基部上 (稀に岩上) に生える。

【現在の生育状況／減少の要因】

新城市 (旧鳳来町) 乳岩峽で確認したが、レッドデータブックあいち 2009 発行以降、新産地の情報は無い。

【保全上の留意点】

森林内及び森林周辺一帯の保全に注意が必要である。

【特記事項】

低倍率のルーペでも腹面側にある腹葉の形を見ると簡単に識別できる。

【引用文献】

岩月善之助(編), 2001. 日本の野生植物 コケ, 352 pp. 192 pls. 平凡社, 東京.

県内分布図

